

「核兵器のない世界に向けた法的枠組み」構築への取り組みを求める意見書

平成27年は第2次世界大戦の終戦から70年の節目を迎える。

我が国は、大戦中、自国民やアジアの人々に多大な苦痛をもたらしたことへの反省に立って、日本国憲法に不戦の決意と「世界平和」という理想実現への努力を謳い、70年間、国際連合を中心とした平和の拡大に真摯に努力してきた。特に、我が国は唯一の被爆国として、核兵器廃絶への取り組みにおいて積極的貢献を果たさなければならない。

平成26年4月、核兵器の非人道性を巡る議論の高まりの中で開催された「軍縮・不拡散イニシアティブ（NPT）広島外相会合」では、世界の政治指導者の被爆地訪問などを呼びかける「軍縮・不拡散イニシアティブ第8回外相会合広島宣言」（広島宣言）を我が国から世界に発信することができたところである。

よって、本市議会は国に対し、一日も早い「核兵器のない世界に向けた法的枠組み」の構築に向けて我が国が積極的貢献を果たすよう、下記事項について強く求めるものである。

記

- 1 核兵器国も参加する核兵器不拡散条約（NPT）において、核兵器のない世界に向けた法的枠組みの検討に着手することを合意できるよう、平成27年に開催されるNPT再検討会議の議論を積極的にリードすること。
- 2 原爆投下70年となる平成27年、我が国で開催される広島での第25回国連軍縮会議、長崎での科学と国際問題に関する会議（パグウォッシュ会議）世界大会から、核兵器のない世界に向けた法的枠組み実現への力強いメッセージが世界に発信できるよう、政府関係者、専門家、科学者とともに市民社会の代表や世界の青年による参加の促進を図るなど、両会議を政府としても積極的に支援すること。
- 3 広島宣言を受け、主要国の首脳が被爆の実相にふれる第一歩として、日本で開催される2016年主要国首脳会議（サミット）の首脳会合、外相会合やその他の行事を広島、長崎で行うことを検討すること。
- 4 核兵器禁止条約をはじめとする法的枠組みの基本的理念となる核兵器の非人道性や人間の安全保障並びに地球規模の安全保障について、唯一の戦争被爆国として積極的に発信し、核兵器のない世界に向けた法的枠組みに関する国際的な合意形成を促進すること。
- 5 日米間のあらゆる場の議論を通じ、核兵器のない世界に向けての法的枠組みを見通した日米安全保障のあり方を検討し、核兵器のない世界に向けた新たな安全保障のあり方を世界に発信することにより、国際的議論を促進すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年3月24日

千葉県松戸市議会

内閣総理大臣
外務大臣
衆議院議長
参議院議長

あて